

JIS

原油及び石油製品—残留炭素分試験方法

JIS K 2270 : 2000

(2006 確認)

平成 12 年 11 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法第14条において準用する同法第12条第1項の規定に基づき、石油連盟(PAJ)から工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS K 2270 : 1998は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、対応国際規格ISO 6615 : 1993, ISO 10370 : 1993を基礎として用いた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。主務大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS K 2270には、次に示す附属書がある。

附属書A(規定) 10 %残油の調製方法

附属書1(参考) ディーゼル燃料油中の硝酸アルキル試験方法—分光光度法

附属書2(参考) JISと対応する国際規格との対比表

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 29. 7. 20 改正：平成 12. 11. 20

官 報 公 示：平成 12. 11. 20

原案作成者：石油連盟（〒100-0004 東京都千代田区大手町経団連会館4階 TEL 03-3279-3811）

審 議 部 会：日本工業標準調査会 化学部会（部会長 三田 達）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は工業技術院標準部標準業務課 産業基盤標準化推進室 [〒100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

原油及び石油製品—
残留炭素分試験方法

K 2270 : 2000

Crude petroleum and petroleum products—
Determination of carbon residue

序文 この規格は、1993年に第2版として発行されたISO 6615, Petroleum products—Determination of carbon residue—Conradson method及び1993年に第1版として発行されたISO 10370, Petroleum products—Determination of carbon residue—Micro methodを元に作成した日本工業規格であるが、技術的内容を変更するとともに、対応国際規格には規定されていない規定項目を日本工業規格として追加している。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、原国際規格を変更している事項又は原国際規格にはない事項である。変更の一覧表をその説明を付けて**附属書2**に示す。

1. 適用範囲 この規格は、原油及び石油製品の残留炭素分を測定する方法について規定する。

備考1. この規格は、危険な試薬、操作及び装置を使うことがあるが、安全な使用方法をすべてにわたって規定しているわけではないので、この試験方法の使用者は試験に先立って、適切な安全上及び健康上の禁止事項を決めておかなければならない。

2. 軽油、A重油及びこれに類似する石油製品について、10 %残油残留炭素分を測定する場合の10 %残油の調製方法を**附属書A**に示す。

なお、マイクロ法で10 %残油を調製する場合は、JIS K 2254の常圧法に規定する4類の試験条件で行ってもよい。

3. 残留炭素分は、ディーゼルエンジンの燃焼室内での炭化物生成量の目安となる。硝酸アルキル(セタン価向上剤)添加品は、燃焼室内での炭化物生成量には影響しないが、残留炭素分が高くなる。このため、燃焼室内での炭化物生成量と残留炭素分との関係は、硝酸アルキルによる残留炭素分の増加分を除いた値を用いる必要がある。

この硝酸アルキルを定量する試験方法を、**附属書1**に示す。

4. この規格の対応国際規格を、**表1**に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、ISO/IEC Guide 21に基づき、IDT(一致している)、MOD(修正している)、NEQ(同等でない)とする。

表1 対応国際規格

試験方法	対応国際規格
コンラドソン法残留炭素分試験方法	ISO 6615 : 1993 Petroleum products—Determination of carbon residue—Conradson method (MOD)
マイクロ法残留炭素分試験方法	ISO 10370 : 1993 Petroleum products—Determination of carbon residue—Micro method (MOD)

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。